## インフォメーション・コーナー

슾	告	
	○平成 29 年度農業農村工学会大会講演会の開催について (第1報) <b>② 平成 29 年 8 月 29~31 日開催</b> ····································	86
	○農業農村工学会会員名簿(冊子体)の作成取りやめについて	86
	○「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画『農業用水 (畑)』」の発行について (再)	86
	○学生会員入会 3 点セットのご案内·······	
	○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	87
	○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!! · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	87
	$\bigcirc$ 平成 $30$ 年の学会誌表紙写真の募集 <b>秋季~冬季締切 平成 29 年 3 月 31 日</b>	88
	○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	89
	○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと	
	2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について	
	○第 12 回バイオマス科学会議の開催について 平成 29 年 1 月 18~20 日開催 ···································	
	○ 2017 ふゆトピア・フェア in 函館の開催について 平成 29 年 1 月 26, 27 日開催 ········	
	村工学会論文集内容紹介·····	
農業農	村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可)一覧	93
受入力	図書	94
	요 録·····	
学会記	<u> </u>	97

#### 第85巻第1号予定

展望:毛利栄征

**座談会**:土地改良長期計画を支える技術の展開方向—若い技術者/研究者へのメッセージ—

小特集:新たな土地改良長期計画を考える

▷報文:新たな土地改良長期計画について:細川直樹ほか

▷報文:水田経営規模の急拡大のもとでの土地改良長期計画の推進に係る原理的な課題に関する論考:

荘林幹太郎ほか

- ▷報文:ICT を用いて省力・最適化を実現する圃場水管理システムの開発:若杉晃介ほか
- ▷報文:農地集積を効率的に進めるためのワークショップの活用:進藤惣治ほか
- ▷報文:持続的で健全な土地改良区のマネジメントのあり方:木下幸雄
- ▷報文:都市農村交流団体の会員特性からみた持続要因:坂田寧代
- ▷報文:水利・水質状況を踏まえた循環灌漑に対する農家の意識調査:櫻井伸治ほか
- ▷報文:農業水利施設における雷害対策の機能診断:森 丈久ほか○報文:ため池の包括的な防災・減災システムの開発:福田裕樹ほか

#### 技術リポート

北海道支部:バレイショ原種圃場における谷埋め盛土の地すべり対策工:辻 輝樹ほか

東北支部:UAV 空中写真測量の試行:斎藤 稔ほか

関東支部: 茂木町深沢下地区における園芸団地計画のある畑地の整備: 森島史明

京都支部:内の倉地区における小水力発電設備の更新事例:藤牧洋介 中国四国支部:湛水防除事業における施設更新の実施事例:瀬川邦男ほか

九州沖縄支部:畑地灌漑施設整備に伴う国道横断工の設計・積算・施工:梅北隆一

水土の知 84 (12) 1125

#### 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちいたしております。
②のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主 催	行 事 名		テーマ	開催場所	掲載号
平成 28 年 12 月 10 日	農業水利研究部会	平成 28 年度研究集会	$\mathscr{B}$	産地収益力向上にかかわる農 業水利システムの高度化と省 力化技術の適用	東京都	84 巻 10, 11 号
平成 29 年 1 月 下旬	農業農村整備政策 研究部会	第4回研究集会	$\mathfrak{B}$		東京都	84 巻 11 号
平成 29 年 1 月 25 日	北海道支部	支部講習会	$\mathfrak{B}$		札幌市	
平成 29 年 1 月 27 日	材料施工研究部会	第 54 回シンポジウム	$\mathfrak{B}$	大規模地震に対する農業水利 施設の耐震対策の現状と課題	名古屋市	84 巻 11 号
平成 29 年 8 月 29~31 日	大会運営委員会	平成 29 年度大会講演会	$\mathfrak{B}$		藤沢市	84 巻 12 号

#### 平成 29 年度農業農村工学会大会講演会の開催について (第1報)



技術者継続教育機構認定プログラム申請中

平成29年度農業農村工学会大会講演会は、日本大学生物資源科学部(湘南キャンパス)において開催を予定しています。 大会講演会への投稿、参加申込みはWebからになります。投稿 要網、参加申込み方法など、詳細は続報でお知らせいたします。

1. 開催期日 平成 29 年 8 月 29 日 (火) ~31 日 (木)

講演会: 平成29年8月29日(火)~31日(木)

交流会: 平成 29 年 8 月 29 日 (火)

現地研修会:未定

#### 2. 会場

開会式および講演会:

日本大学生物資源科学部 本館 4 階大講堂, 1 号館 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866

交流会:日本大学生物資源科学部 食堂棟3階

#### 3. 大会期間中の宿泊について

宿泊の斡旋は今回も行いません。本大会期間中に他学会の大会も開催されるため早めの宿泊予約をお願いします。

#### 農業農村工学会会員名簿(冊子体)の作成取りやめについて

農業農村工学会会員名簿(冊子体)は、個人情報保護の観点から、平成28年度から作成を取りやめることを第234回理事会(平成28年9月27日開催)で決定いたしましたので、お知

らせいたします。

なお、その他の個人情報の保護に関しては、「農業農村工学会の個人情報の保護に関する基本方針」により取り扱います。

#### 「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画 『農業用水 (畑)』 の発行について (再)

この度,「土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画 『農業用水(畑)』」が平成28年10月末に発行されました。

#### <改定の趣旨より抜粋>

…, 平成9年6月3日に土地改良事業計画設計基準 計画 「農業用水(畑)」(以下「本基準」という。)として全面改定を 行った。

その後,平成13年の土地改良法の一部改正において,土地改良事業の施行に当たって環境との調和への配慮が位置付けられるとともに,平成24年に閣議決定された土地改良長期計画では,農業水利施設の戦略的な保全管理が位置付けられた。

これらの施策を、畑地かんがいに係る土地改良事業の計画 に反映するため、本基準の内容を改めて制定した。 購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

#### 1. 発行書籍

書籍名:土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画 「農業用水(畑)」

監修:農林水産省農村振興局 発行:(公社)農業農村工学会

価格:2,900円(消費税8%込,送料学会負担)

規格: A4 判約 400 ページ 改定年月: 平成 27 年 5 月

#### 2. 申込方法

I. 個人, 法人の場合(賛助会員を除く)

①郵便振替:郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名,冊数, 送付先,担当者名,連絡先をご記入ください。

振替口座番号: 00160-8-47993

加入者:公益社団法人 農業農村工学会

会 告 87

②現金書留:書籍名,冊数,送付先,担当者名,連絡先を

書いた注文書をご同封ください。

③代金引換:書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を

記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail または FAX でお送りください。別

途、代引手数料が必要です。

Ⅱ. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書を E-mail または FAX でお送りください。

#### 3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会事務局 図書係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

#### 学生会員入会3点セットのご案内

農業農村工学会は、将来を担う若い方たちが早くから学会活動に参加することを通じて、よりよく社会に貢献できる環境づくりを目指しています。その一環として、学生の方々が少しでも入会しやすいように、「学生会員入会3点セット」(初年度会費、農業農村工学ハンドブック、標準用語事典のセット)を設けていますので是非、ご利用ください。

#### 通常の申込価格

<学部学生>

(ハンドブック+標準用語事典+年会費)

20,571 円(定価) +4,628 円(定価) +2,500 円 =27,699 円

〈大字院生〉

(ハンドブック+標準用語事典+年会費)

20,571 円(定価) +4,628 円(定価) +5,500 円 = 30,699 円 3 点セット価格

<学部学生>

ハンドブック+標準用語事典+年会費=17,000円

<大学院生>

ハンドブック+標準用語事典+年会費=19,500円

\*10月1日以降の入会については、初年度のみ会費が半額に たります。

詳しくは学会ホームページをご確認ください。

#### 問合せ先

(公社) 農業農村工学会事務局 図書係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

#### 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきた く、お願い申し上げます。

なお,この学術基金は今後,学生会員のインターンシップの 助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50.000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行: みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替:00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

#### 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教

育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で 送信してください。

#### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

#### 2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等 の事実的内容から、択一式で毎月10 間を出題

#### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前に Web 利用登録が必要)

#### 4. 解答期限

問題掲載号の月から翌月末日まで

(例:学会誌 12 月号掲載の問題は1月末日が解答期限)

#### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録 (正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。)

#### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

#### 平成30年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成30年発行の学会誌も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

#### 趣旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

#### 1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物:先人たちの技術と苦労 が垣間見える造形美」

**2. 対象巻号** 学会誌第86巻 (平成30年1~12月号)

#### 3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。(四つ切りワイド、A4サイズも含みます)。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし、形式はJPEGのみに限定します。

#### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 秋季~冬季 平成29年3月31日

春季 平成29年6月30日 夏季 平成29年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限ります。

6. 審 査 審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

#### 7. 結果発表

学会誌第86巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成30年度全国大会会場内でパネル展示します。

#### 8. 「Cover History (表紙写真由来)」執筆および写真使用料に ついて

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は(公社)農業農村工学会に 属します。

#### 10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

#### 11. 応募方法および応募先

学会ホームページより, 応募票をダウンロードし, タイトル, 郵便番号, 住所, 氏名, 勤務先, 電話番号, E-mail アドレス, 写真のテーマ, 撮影場所, 撮影年月日, 対象物の固有名称(固 有名詞), 対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し, 応募写 真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

#### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農 業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要 項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上,ご投稿ください。

89

#### 学会誌 85 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
85 巻 1号 新たな土地改良長期計画を考える(仮)	公募終了
2号 海外農業農村開発協力のこれまでとこれから(仮)	公募なし
3 号 ダム保全管理工学の最前線(前編)(仮)	公募終了
4号 ダム保全管理工学の最前線(後編)(仮)	公募終了
5号 多彩な農業農村工学の魅力の発信(仮)	平成 29 年 1 月 16 日
6号 産官学の連携(仮)	平成 29 年 2 月 15 日
7 号 大会特集号 (関東支部)	公募なし

す。

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集 しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せくだ さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告な く変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっております ので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたしま 送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

#### 85巻5号テーマ「多彩な農業農村工学の魅力の発信」(仮)

「農業農村整備に関する技術開発計画(骨子)」(案)(平成28年10月時点)では、技術開発の推進に向けた6つの取組方針が打ち出されました。その中の1つ「人材の育成と品質確保」では、「産学官が連携し、交流、研修、国の計画設計基準等の技術図書の普及、新技術導入等による品質確保等を通じて、時代の要請に即した実践的な技術力を有する人材を育成していく。また、地域の課題を的確に捉え、技術開発の進展に対応して地域への的確な技術的サポートができる技術者の育成を推進する」とあります。こうした人材を育成していくためには、まず人材の確保が前提となります。これには、農業農村工学分野に進学した学生がこの分野への魅力を感じ、将来一翼を担うことが重要です。

農業・農村をとりまく社会、経済情勢は、これまでにも増して、変化の速度を速めており、大規模な経営体の出現や農業の 六次産業化など、新しい時代に向けての構造変化も進んでいま す。さらには、極端な気象現象や大規模地震が頻発し、放射能 汚染などもあって、農地や水利施設への減災技術などの進展が 望まれ、今後も将来にわたり、若い有望な人材が必要とされて います。

そのために、農業農村工学会では今、教育、研究、行政、民間をも含めた関係するすべての機関が協力し、若い人々に「農業農村工学」が魅力ある分野であることを発信し、同時に、この分野で活躍することに生きがいを感じられる仕組みについて、知恵を出し合うことが必要となっています。

本小特集では、農業農村工学分野の魅力を学生会員を中心とした若者に発信することを目的として、多彩な技術・研究の最先端や若者の活躍の場の紹介のほか、ワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方や職場環境などに関する報文を募集します。特に、賛助会員、民間企業の会員の皆様からの積極的な投稿をお願いいたします。なお、報文は4ページに達しないものも歓迎します。

# 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関

わる研究論文,技術論文が多数掲載されていますので,研究者 のみならず,各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情 報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展 への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅

水土の知 84 (12) 1129

広い内容となっています。

- ① 灌溉(水配分管理, 水収支, 灌溉施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理,排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良,土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発,水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節,地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)
- (7) 地域計画 (農村計画,土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境,土壌環境,気 象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換,施設園芸)
- (10) 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界14カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review、Article、Technical Report およびShort Communication の4種類です。

一方,2016年7月から,新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

#### 編集体制

· Editor-in-Chief: Dr. Takao MASUMOTO (Japan)

Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan

- · Editors 14 カ国から 20 名
- · Advisory Editing Board 29 名
- Chief Management Editor

#### Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

· Managing Editors

#### Dr.Jin-Yong CHOI

Institute of Green-Bio Science and Techology, Seoul National University, Korea

Dr.Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,

National Taiwan University, Rep. of China

#### Mr. Nobuyoshi FUJIWARA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

#### Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

#### Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

#### 編集事務局(2016年7月から2018年6月まで):

· Dr. Yu-Pin LIN

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering, National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan, Rep. of China

TEL: +886-2-3366-3467, +886-2-2368-6980

FAX: +886-2-2368-6980 E-mail: yplin@ntu.edu.tw

投稿先: オンライン投稿(http://pawe.edmgr.com/)になり

ます。

投稿資格:筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者である

**投稿要領等**: http://pawe.edmgr.com/に詳細を記載しています。

**発行スケジュール**: 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料:正会員・名誉会員 12,343 円 学生会員(院生含む)8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず 農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度 からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

**申込先**:農業農村工学会事務局

#### 第12回バイオマス科学会議の開催について

2015年末に開催された気候変動枠組条約第21回締結国会議 (COP21)では、2020年以降の温暖化対策の国際枠組みである「パリ協定」が採択され、産業革命以前からの世界の平均気温の上昇を2度よりも十分低く保つとともに、これを1.5度に制限する努力を追求することが求められています。これに対して、わが国でも、2030年までに2013年度比で温室効果ガス排出量を26%削減することを目標とすることを掲げています。このような中で、バイオマス利活用のさらなる拡大が期待されます。

第12回バイオマス科学会議では、大きく変化する国内外の 社会情勢の中で、環境、経済、社会に貢献できるバイオマス利 活用の推進に対して、今後、導入すべき技術やシステムは何か、 また、その社会実装に向けて解決すべき課題について、この分 野を支えてきた重鎮の先生方をお招きして、その展望をお聞き するとともに、これからを支える気鋭の研究者にも大いに議論 を深めていただく場としたいと思っております。また、東京湾 岸地帯の関連施設をめぐる魅力的なテクニカルツアーも企画し ます。 バイオマス研究者や関係各位には、是非とも、多数のご参集 をいただきたくご案内いたします。

1. 主催 日本エネルギー学会バイオマス部会

協 賛 農業農村工学会ほか22学協会(予定)

後 援 東京大学(予定)

- 2. 日 時 平成29年1月18日 (水), 19日 (木) テクニカルツアー 1月20日 (金)
- 3. 会場 東京大学弥生講堂・一条ホール

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学農学部内

- 4. **懇親会** 平成 29 年 1 月 18 日 (水) 夕方
- 5. 参加申込み等

参加費、参加申込み等の詳細は第12回バイオマス科学会議ホームページ (http://www.jie.or.jp/2017/bio/index.html)をご覧ください。

### 2017 ふゆトピア・フェア in 函館の開催について

「ふゆトピア・フェア」では、国、地方公共団体、住民、NPO、企業などさまざまな方々が参加し、北国のふゆの課題の克服、ふゆを活かした地域づくりに関するハード・ソフト両面にわたる技術や取組みについて、意見交換や情報発信を行うことを通じて、北国における各主体の活動および相互の連携の発展・拡大に寄与し、地域の活性化や魅力あるまちづくりの実現を目指します。

本フェアは、東北・北陸で開催される「ゆきみらい」と連携しながら、シンポジウム、研究発表会、雪寒技術の展示会、除雪機械の展示・実演・競技会などを一般の方々を対象に、3年に1度、北海道内で開催しています。これまで、札幌市、旭川市、千歳市、釧路市などで開催され、今回で11回目になります。開催の詳細は「2017 ふゆトピア・フェア in 函館」ホームページ

(http://www.hkd.mlit.go.jp/kanribu/chosei/fuyutopia/top\_hakodate.html) をご覧ください。

- 主 催 「2017 ふゆトピア・フェア in 函館」実行委員会
   後 援 農業農村工学会ほか
- 2. **開催テーマ** 函館に集う ヒト・モノ・技術から 北の暮 らしのイノベーション
- 3. 開催日 平成29年1月26日(木),27日(金)
- 4. 開催地 北海道函館市 (函館市民会館, 函館アリーナ, 函 館競馬場駐車場)
- 5. 開催内容 オープニングセレモニー, ふゆトピアシンポジウム, ふゆトピア研究発表会, ふゆトピア展示会, 除雪機械展示・実演会, 競技会, 交流会

### 改訂七版 農業農村工学ハンドブック

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書は、学会創立 80 周年の記念出版事業として、農業土木学会から農業農村 工学会への学会名称の変更等をふまえ、「改訂六版農業土木ハンドブック」を改 訂したものです。

今回の主な改訂点は以下のとおりです。

・判型:B5判・8ポイント組,本編・基礎編の2分冊としました。

・販価:対象読者層の若手技術者および学生層を考慮し、出版を農業農村工学 会独自で行い、購入しやすい価格を実現しました。

・構成:本編(6部構成),基礎編(6部構成),付録編(農業農村工学教育)の 構成としました。

・内容:改訂六版の精神を継承した上で,現代の農業農村工学を体系づけるものとし,新分野の拡充と既存分野を整理・統合しました。さらに,基礎編は,JABEE認定プログラムに配慮して構成しました。

農業農村工学ハンドブック

基礎編
農業農村工学ハンドブック

基礎編
農業農村工学ハンドブック

A 編

Employ

真素農村工学会

体 裁:B5判 本文約1,250ページ

(本編約800ページ 基礎編約450ページ)

定 価:20,571 円(税込・送料学会負担) 会員特価:16,458 円(税込・送料学会負担) 発行:公益社団法人 農業農村工学会

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: suido@isidre.or.ip

学会ホームページ: http://www.jsidre.or.jp/